

愛知県廃棄物処理計画の目標値と2021年度実績の比較

- 2021年度は、前廃棄物処理計画（2017～2021年度）（以下「前計画」）の目標年度であり、目標達成状況については、資料1（一般廃棄物）及び資料2（産業廃棄物）のとおりである。
- 一方、2021年度の実績を、現廃棄物処理計画（2022～2026年度）（以下「現計画」）の目標値と比較した場合は、表及び図のとおりとなる。
- なお、現計画から、食品ロスの削減の推進に関する法律において、都道府県が定めるべきものとされる「食品ロス削減推進計画」を含めた内容となっている。
- 現計画の策定に当たっては、前計画期間における廃棄物処理の現状や課題を整理するとともに、将来予測を行い、2026年度における減量化の目標を設定している。
- 引き続き一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量・最終処分量等を毎年度推計し、目標の達成状況を把握するとともに、各種施策の着実な推進に努めていく。

表1 現・前計画目標値と2021年度実績との比較

項目	現計画 (2026年度目標値)	前計画 (2021年度目標値)	実績 (2021年度)
排出量	●一般廃棄物 239万トン ●産業廃棄物 1,557万3千トン	●一般廃棄物 240万4千トン ●産業廃棄物 1,570万5千トン	・一般廃棄物 241万2千トン ・産業廃棄物 1,589万7千トン
再生利用率	—	●一般廃棄物 約23% ●産業廃棄物 約74%	・一般廃棄物 22.3% ・産業廃棄物 69.4%
出口側の循環利用率※1	●一般廃棄物 約23% ●産業廃棄物 約74%	—	・一般廃棄物 22.3% ・産業廃棄物 69.9%
最終処分量	◎一般廃棄物 18万6千トン ●産業廃棄物 61万4千トン	◎一般廃棄物 19万8千トン ◎産業廃棄物 82万9千トン	・一般廃棄物 16万トン ・産業廃棄物 72万2千トン
一人一日当たりの 家庭系ごみ排出量※2	● 480g	● 500g	514g

- ※1：廃棄物等の発生量のうち、循環利用量(再使用・再生利用量)の占める割合を表す指標
 一般廃棄物の「出口側の循環利用率」=「総資源化量」/(「収集ごみ量」+「直接搬入ごみ量」+「集団回収量」)×100
 産業廃棄物の「出口側の循環利用率」=[再生利用量+金属くず、ガラス陶、鋳さい、がれき類それぞれの減量化量-動物のふん尿の直接再生利用量]/[排出量]×100
- ※2：一般廃棄物の一年間の総排出量から、事業系ごみ量及び集団回収量、生活系資源ごみ量を差し引いて、一人一日当たりに換算した量
- ※3：◎2021年度実績で目標を達成、●2021年度実績で目標を未達成

表2 食品ロス削減の目標値と2021年度実績との比較

	参考値 (2000年度)	目標 (2026年度)	将来目標 (2030年度)	実績 (2021年度)
食品ロス発生量	825	●433	●413	455
家庭系	356	●189	●178	193
事業系	469	●244	●235	262

※ ◎2021年度実績で目標を達成、●2021年度実績で目標を未達成

一般廃棄物

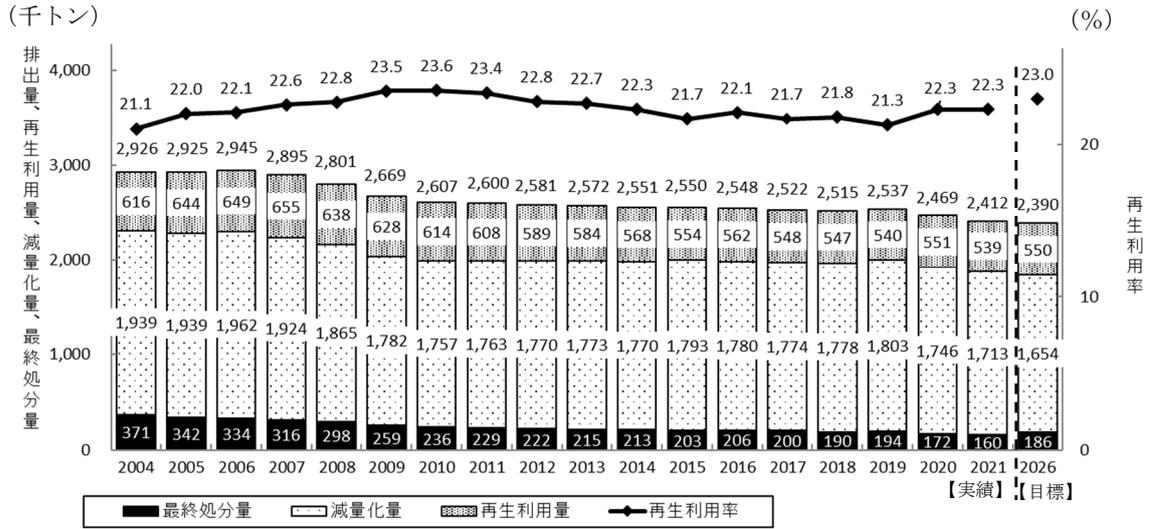


図1 排出量、最終処分量、再生利用率の概況【目標達成状況および経年変化】

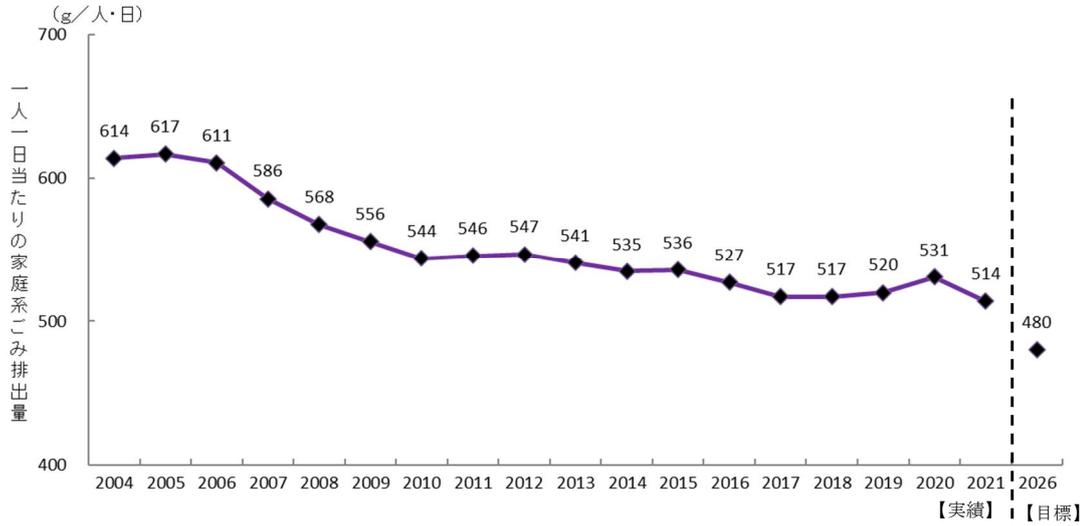


図2 一人一日あたりの家庭系ごみ排出量【目標達成状況および経年変化】

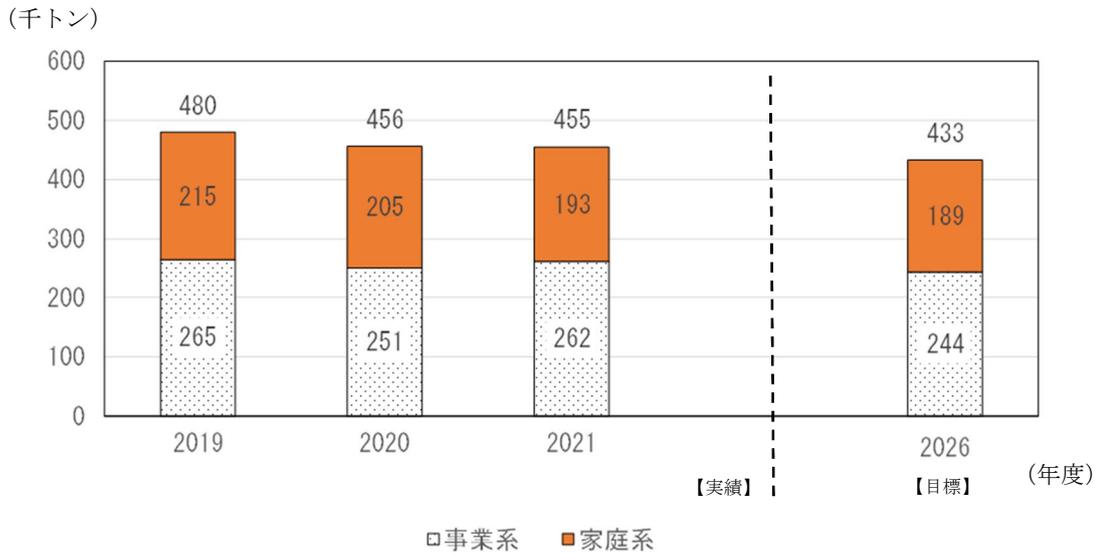
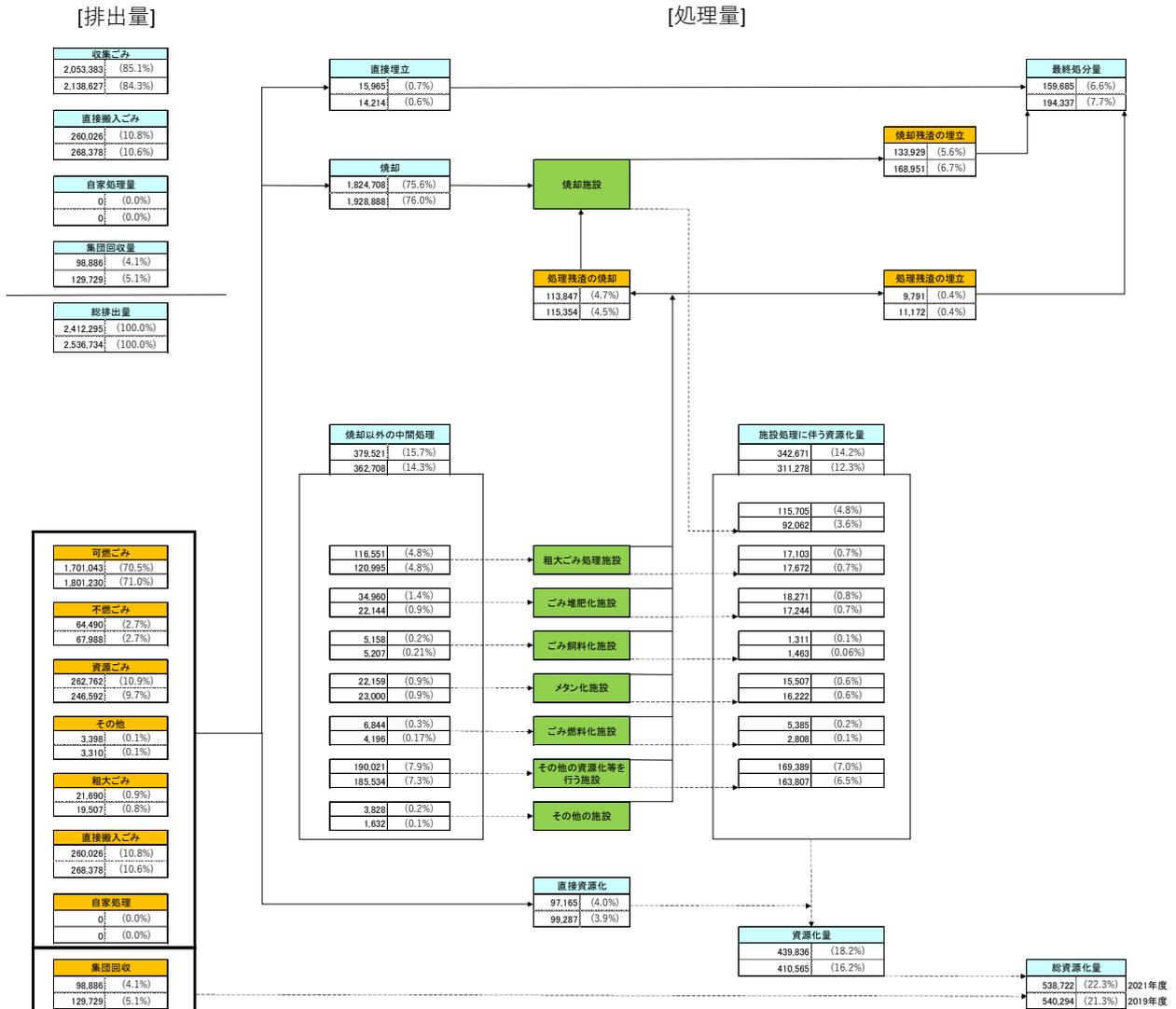


図3 食品ロス発生量【目標達成状況および経年変化】



(単位：トン/年)

注1：表上段は2021年度実績、下段は2019年度実績を示す。

注2：収集ごみの「その他」とは、危険ごみ等をいう。

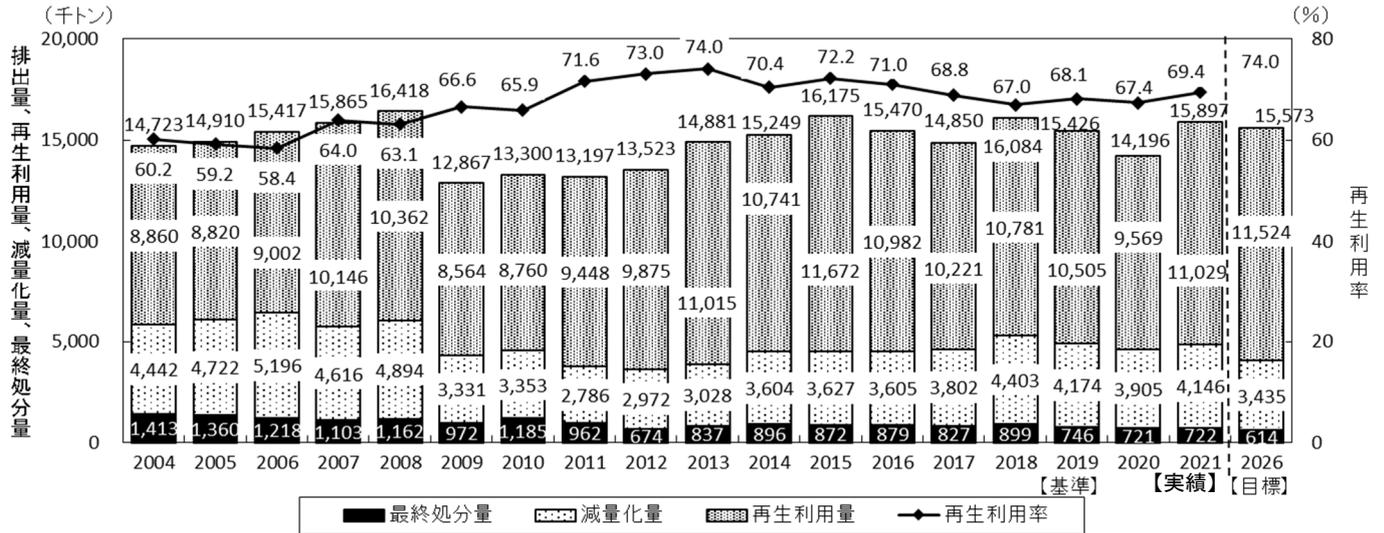
注3：「その他の施設」とは、粗大ごみ処理施設、ごみ燃料化施設又は資源化施設以外の施設であって、資源化を目的とせず埋立処分のための破砕、減容化等を行う施設をいう。

注4：()内は総排出量に対する割合を示す。

注5：数値は四捨五入のため、合計値が一致しない事がある。

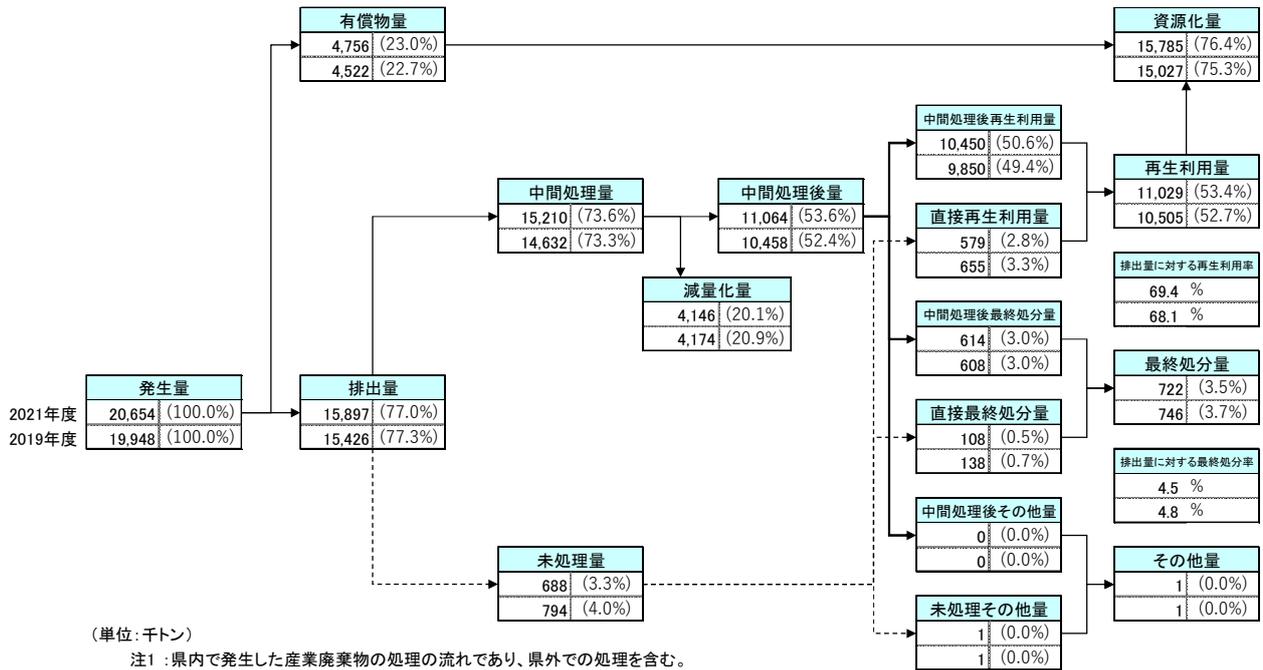
図4 処理の流れ

産業廃棄物



注: その他量を除いているため、排出量と各処理量の合計値は一致しない。

図5 排出量、最終処分量、再生利用率の概況【目標達成状況および経年変化】



(単位: 千トン)
 注1: 県内で発生した産業廃棄物の処理の流れであり、県外での処理を含む。
 注2: 数値は四捨五入のため、合計値が一致しない事がある。
 注3: ()は発生量に対する割合を示す。
 注4: その他量は保管等の量である。

図6 処理の流れ